

ボツワナ共和国月報(2022年11月)

主な出来事

【COVID-19】

- 感染者数

【内政】

- 大統領所信表明演説

【外政】

- 第18回キンバリー・プロセス総会の開催
- マシシ大統領、気候変動枠組条約COP27に出席
- マシシ大統領、ユニセフ主催の世界子どもの日のイベントに出席
- マシシ大統領、ニジェールにて開催のAU臨時総会に出席
- SADCモザンビーク・ミッション派遣中のボツワナ国防軍兵士の死亡

【経済】

- フィッチによる消費者動向見通し
- ボツワナJICA海外協力隊30周年記念式典
- オレンジ・ボツワナが5G サービス開始
- 知財政策の策定:2036年までに知財主導経済国家
- 「チョベ・バスケット・ブランディング支援」Launchingイベント
- 10月の年間消費者物価指数上昇率:2か月連続の上昇率縮小
- 9月の国際商品貿易統計:輸入額が大幅に増加(前月比)
- 2021年度交通インフラ統計

【COVID-19】

○感染者数

当地は、5月に感染者数が毎週倍増し、6月に感染の第5波に入ったが、6月末頃から減少傾向となり、7月末に第5波が収束、10月頃まで低い感染率を維持してきたが、11月に入って感染者数が緩やかに増加してきている。

【内政】

○大統領所信表明演説

14日、マシシ大統領は、所信表明演説を行い、持続可能な経済開発、人間・社会開発、ガバナンス・平和・安全保障、国際関係等における本年の成果及び今後の政策方針を表明した。

【外政】

○第18回キンバリー・プロセス総会の開催

1日～4日、第18回キンバリー・プロセス総会が首都ハポローネにて開催された。本総

会では、(ア)2023年に予定されているKP認証制度見直しの委託事項に関する議論及び合意、(イ)ハボローネにKP事務局を設置すること、2023年の議長国をジンバブエ、副議長国をアラブ首長国連邦とすることが決定された。世界ダイヤモンド評議会会長は、現在の「紛争ダイヤモンド」の定義では全ての組織的暴力を防げず、現行の認証制度は不完全であり、KPが現下の課題を踏まえて活動することが重要である旨述べた。

○マシシ大統領、気候変動枠組条約COP27に出席

7日～8日、マシシ大統領は、エジプトで開催されたCOP27に出席した。同大統領は、ボツワナは革新的な解決策をもって気候変動の課題に取り組んでおり、それは、研究・発明・デジタル化等を推奨する(国内政策の)リセット・アジェンダにも沿っている旨述べた。エジプト滞在中、マシシ大統領は、内陸開発途上国(LLDC)議長としてLLDCの見解を示し、また、国連環境計画、アフリカ開発銀行やAUとハイレベル会合を共催、グテーレス国連事務総長及びエルシーシ・エジプト大統領と面会した。クワペ外務大臣、モラオ農業大臣及びケレン環境・観光大臣が同行。

○マシシ大統領、ユニセフ主催の世界子どもの日のイベントに出席

20日、マシシ大統領は、ザンビアにて開催されたユニセフ主催の「世界子どもの日」のイベントに、ムナンガグワ・ジンバブエ大統領、ヒチレマ・ザンビア大統領及びナミビア・ムブンバ副大統領とともに出席した。マシシ大統領は、デジタル化が進む中、各国が教育をデジタル化することが重要であるとの考えを示し、子どもに優しいデジタルコンテンツの開発は、第三世界の国々での学習を向上させることができる旨述べた。政府の取組として、子供達と教師に学習用電子機器を配布し、デジタルリテラシーとEラーニングの向上を目指している旨紹介した。

○マシシ大統領、ニジェールにて開催のAU臨時総会に出席

25日、マシシ大統領は、ニジェール・ニアメにて開催された第17回産業化及び経済多角化に関するAU臨時総会に出席した。マシシ大統領は、ボツワナが、リセット・アジェンダ等を通じて、アフリカの産業化計画の実現に取り組んでいる旨述べた。また、カズングラ橋やワンストップ・ボーダー・ポストの開発事業は、アフリカの人々を繋ぎ、SADCを統合することを目的としており、資源が限られているため不十分ではあるも、AUアジェンダ2063の達成に向けて必要な取組の一環である旨述べた。

○SADCモザンビーク・ミッション派遣中のボツワナ国防軍兵士の死亡

29日、SADCモザンビーク・ミッション(SAMIM)派遣中のボツワナ国防軍兵士が、カーボデルガード州のンコンガ地区にて、テロ組織Ahlu Sunnah Wa-Jama (ASWJ)に対するオペレーション中に負傷し、死亡した。

【経済】

○フィッチによる消費者動向見通し

信用格付会社フィッチは、ボツワナの小売支出について、携帯電話、ノートパソコン、コンピュータなどの家電製品の購入が着実に増加すると予想した。同社は、2022年から2026年にかけて、AV機器、カメラ、コンピュータの支出額について、年平均13.2%の成長率を予測。同社はまた、スマートフォンの旺盛な需要は、4G及び5Gの携帯電話サービスの契約需要を喚起しているとし、4G契約数が2022年の携帯電話契約数全体の23.2%から2026年には47.7%に増加し、5G契約数は2022年の1.3%から2026年には15.9%に大幅に増加すると予測している。

○ボツワナ JICA 海外協力隊 30 周年記念式典

4日、ハボローネ市内にて、ボツワナJICA海外協力隊派遣30周年記念式典が開催され、モカワ外務次官、JOCV 配属先関係者、小林JICA青年協力隊事務局長、村井臨時代理大使他約 100 名が出席した。来賓祝辞では、モカワ外務次官より、日本政府及びJICAに対して、長年にわたるJOCV隊員の当国への貢献及び日・ボツワナの友好関係について謝辞が述べられた。

○オレンジ・ボツワナが5Gサービス開始

オレンジ・ボツワナは、11日より大ハボローネ地域及びフランシスタウンにおいて、5Gを開始した。2023年初頭より他地域でも随時サービスが開始される見込み。ボツワナは、同グループにとって、アフリカで最初に5Gサービスを提供する国となった。

○知財政策の策定：2036年までに知財主導経済国家

ボツワナ政府は、世界知的所有権機関(WIPO)協力の下、ボツワナ知財政策(BIPP)を策定した。BIPPは、ボツワナを2036年までに知財主導経済国家へ導くもので、農業ビジネス、農産工業、クリエイティブ産業、ヘルスケア産業、観光及び情報通信を特定知的財産の重点分野としている。

○「チョベ・バスケット・ブランディング支援」Launchingイベント

18日、世界知的所有権機関(WIPO)ジャパン・ファンド事業「チョベ・バスケット・ブランディング支援」Launchingイベントが開催された。本式典には、ハレ起業大臣、並びに産業貿易省、WIPO、日本大使館及び地元関係者等が参加した。

○10月の年間消費者物価指数上昇率：2か月連続の上昇率縮小

ボツワナにおける10月の年間消費者物価上昇率は、前月の13.8%から13.1%に減少し、2か月連続で上昇率は縮小した。これはエネルギー規制庁(BERA)によって今年9月及び

10月に立て続けに実施された燃料小売価格引下げによる交通部門の物価寄与度が縮小したためであり、食品・飲料、住宅、光熱費などの主要部門は概ね横ばいである。

○9月の国際商品貿易統計：輸入額が大幅に増加（前月比）

輸入総額は118.05億プラで、前月の70.77億プラから66.8%増加した。他方、同月の輸出総額は88.19億プラで、前月109.31億プラから19.1%減少した。輸入総額の品目別割合は、ダイヤモンド48.2%、燃料12.4%、機械・電気機器8.8%、食品・飲料・タバコ8.6%、輸出総額の品目別割合は、ダイヤモンド87.9%、銅3.3%、機械・電気機器3.0%となっている。輸入元は、地域別でSACU（南アフリカ関税同盟）85.4%、アジア5.6%、EU2.5%、国別では南アフリカからの輸入は首位となる69.2%を占めた。輸出先は、地域別でアジア67.2%、SACU15.7%、EU12.3%、国別ではUAEが首位となる31.6%を占めた。

○2021年度交通インフラ統計

ボツワナの道路網の総延長は、32,564.3kmに達した。ボツワナの自動車保有台数は、前年の579,789台から613,845台と5.9%増加した。新規に登録された自動車の70%以上は日本から輸入された。交通事故件数は、前年の15,075件から17,277件と14.6%増加した。航空機の移動は、20年前の21,283回から36,878件と73.3%増加した。鉄道による物資の輸送量は、前年の120万4981トンから105万4118トンと12.5%減少した。